

●農のあるライフスタイルづくり (平成17～19年度)プロジェクトについて

和束町と南山城村において、町村外から団塊世代を中心に田舎暮らしを希望される方に対して、地元住民の方が講師になった農業・農村体験や意見交換会・交流会を開催し、都市部の方々と農山村住民との情報交換や相互理解を進めて来ました。

農山村を知る→農山村のファン→農山村のリピーター→農山村との交流・移住→農山村の活性化に繋げるという目標に取り組んだ結果、和束町では1組の御夫婦が通いでトマトのハウス栽培を開始され、南山城村では1組の御夫婦が4月に移住予定となっている。これらは役場と地元の方々の協力により実現できたものです。遊休施設や農

地、家屋が有効利用され、このような事例の積み重ねが地域の活性化に役立つと考えています。今後は、この3年間の経験を踏まえ、町村外の方々の自活力や意欲を地域の多様な担い手に結び付ける仕組みづくりを行うこととしています。



▲相互理解が深まった交流会(平成19年9月南山城村)

平成19年度 新規認定農業士(12名)

●指導農業士

氏名	住所	部門
北尾 隆幸	城陽市	茶・水稲
尾崎 清	木津川市	水稲・たけのこ・野菜
村田 源人	井手町	茶・果樹

●女性農業士

氏名	住所	部門
西川 さつき	宇治田原町	野菜
田中 好子	精華町	水稲・切り花・野菜・加工
藤村 絹子	精華町	水稲・大豆・加工

●青年農業士

氏名	住所	部門
吉田 利平	宇治市	茶・水稲
今川 雅裕	八幡市	野菜・水稲
東川 輝雄	八幡市	軟弱野菜・水稲
阪本 浩一	久御山町	ナス・コマツナ
澤樹 信吉	和束町	茶
北本 勝実	南山城村	茶

(敬称略)

平成19年度農林水産祭で栄えの受賞

宇治田原町の下岡久五郎さんが天皇杯を受賞されました。茶園の面積拡大、共同製茶工場の設置、高品質茶生産等にいち早く取り組まれ、また、茶の消費宣伝など長年にわたる茶業振興への貢献が高く評価されました。

平成20年度 山城地域・担い手養成 農業基礎講座を開講します

告知

時期 平成20年 6月～12月(全9回予定)
場所 府田辺総合庁舎他
募集対象者 山城管内の就農5年未満の農業者(ただし、家庭菜園の方は除きます)
その他 「茶」「野菜」などの専門項目をテーマとした「栽培基礎講座」も予定しています。

*詳細については、山城北・南普及センターまで問い合わせください。

やましろ

2008年3月

第5号



普及センターだより

特集

農の未来を拓く伝統と確かな技術

「農業は一生勉強です」と匠は語ります。山城地域では多くの先輩や先人が高め極めた生産技術と知恵を基盤により特色ある高付加価値化農業に取り組んでいます。

今回は天皇杯、食アメニティコンテスト、京都府農山漁村高齢者技能登録と認定の栄によくされた皆さま方と、各地での新技術の取組みを紹介します。

新たな農の匠が認定されました

京都府では農山漁村の伝統的な技能のうち特に優れた保持者を農・山・海の「匠」に認定しています。平成19年度は山城地域から2名の方が認定されました。

「水生花き栽培」の岩見良三氏(城陽市)は、京都府の水生花き栽培の第一人者であり、特にカキツバタの導入に大きく貢献されました。

「しんこだんご加工」の阿辻好子氏(井手町)は農産加工全般に優れた技術を保持し、特にしんこだんごの細工は動物や野菜等、芸術品のような出来栄えに造形されます。

御両名には、今後も一層の御活躍が期待されます。



▲岩見良三氏



▲阿辻好子氏

食アメニティコンテストで受賞

八幡市の京・流れ橋食彩の会(谷口美智子代表理事他33名)が、19年度全国食アメニティコンテストにおいて優秀賞を受賞されました。出品財のたけのこパンは特産を生かしたアイデアが、また、農と食をむすぶNPOの地域貢献活動が、高く評価されました。



京都府山城北農業改良普及センター

〒610-0331 京田辺市田辺明田1 TEL.0774-62-8686

京都府山城南農業改良普及センター

〒619-0214 木津川市木津上戸18 TEL.0774-72-0237
 ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/yamashiro/>

～農薬を安全に正しく使いましょう～

● エビイモの初期生育促進技術



▲ 定植時に不織布をかける



▲ 6/28の様子（左が不織布区）

エビイモの栽培では、初期の生育が大きく収量に影響します。特に寒い地域では、定植直後の4月～5月に霜や低温で生育が阻害されることがあります。宇治田原町で、不織布を利用した生育促進技術を検討しました。

5月31日に苗を定植した事例では、5月31日～6月23日まで不織布で苗を被覆したところ、生育が約2割促進され、収量も約4割増加しました。

もう少し早い定植では、さらに効果があると考えられるので、寒い地域では、効果的な技術と考えられます。

● 袋がけ栽培で富有柿の新商品を開発



▲ 葉を添えた贈答用化粧箱

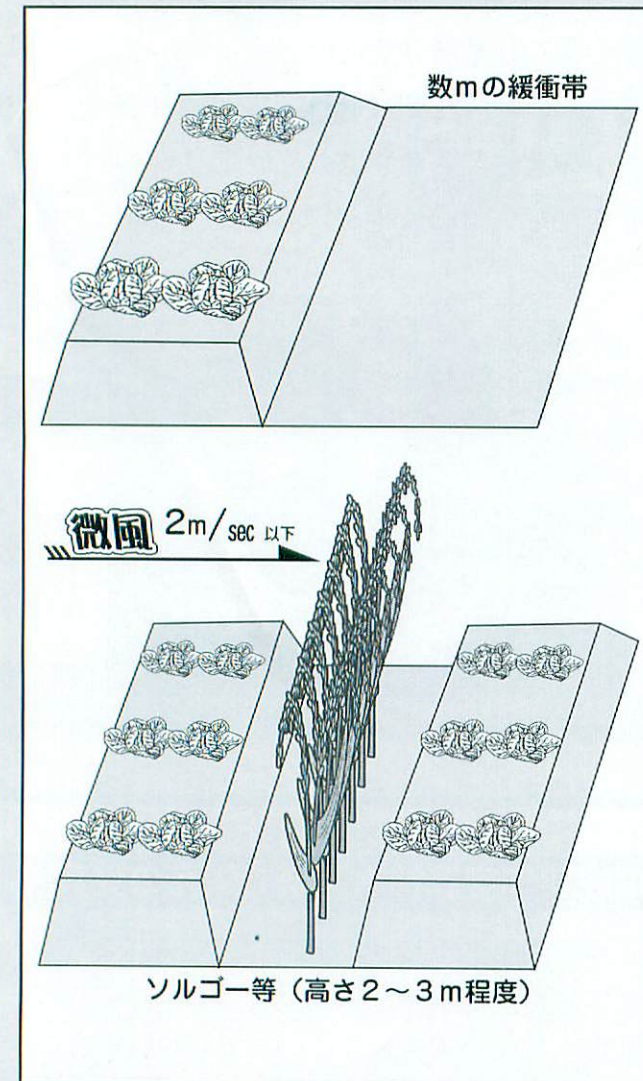
木津川市の鹿背山柿出荷組合（8戸）では、西村早生と富有柿を市場、直売所、宅配での販売をしています。

最盛期となる11月には選果作業が忙しく、収穫できない柿が約2割であるので、袋がけにより収穫期を長くしました。

その結果、12月20日頃まで収穫が可能となり橙色で色つやが良く、糖度も18%と慣行より3%向上しました。

出荷組合では化粧箱や鹿背山を紹介する葉を新調し、お歳暮の贈答品を開発しました。

● 農薬の安全使用と飛散防止

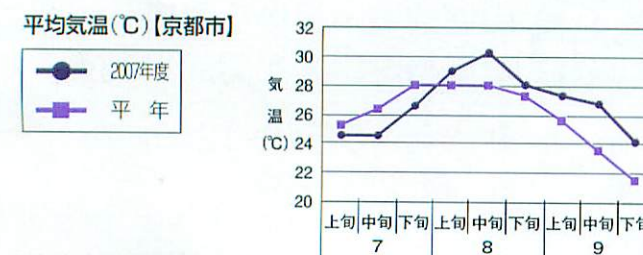


食品衛生法では、定められてた残留農薬基準を超えるか基準が設定されていない農薬を検出すると農作物が販売禁止になります。農薬を使用する時はラベルの表記内容を確認し、使用基準（適用作物、使用方法、倍率と使用量、使用可能時期、成分ごとの総使用回数）を守りましょう。

また、散布時に他の作物まで飛散（ドリフト）することもあります。次の対策が必要です。

- 1 飛散の影響の少ない生産環境**
風速2m以下で作業し、近接ほ場での異なる作物がある場合は距離を空け、緩衝帯を設ける。緩衝帯にソルゴーなどを栽培します。
- 2 飛散しにくい散布方法**
粒剤などの農薬は飛散しにくいので、できるだけ局所に使用します。
液剤散布の噴口をドリフト軽減ノズルに取り替えます。
- 3 近接する作物への安全性の配慮**
近接する作物にも登録のある農薬を選定します。
- 4 注意すること**
年間作付け計画の作成時に緩衝帯を設ける時期と場所を考慮しましょう。
アセフェート等の浸透移行性の薬剤は、根や葉から吸収され作物体内を移行しますので、収穫前日数を確認して使用します。

● 水稻の高温障害対策



田植え時期別出穂期(平年)

田植え日	出穂期
6月1日	8月22日
6月5日	8月25日
6月10日	8月28日
6月15日	8月31日
6月20日	9月4日

※アメダスによる出穂期予測（巨椋池「ヒノヒカリ」）

近年、8月、9月の気温が高温になり、水稻の高温障害が発生しています。

出穂後20日間の平均気温が26～27°C以上の高温になると、収量は低下し、心白や乳白米、基部未熟粒が増えます。

「ヒノヒカリ」高温障害対策

- 1 出穂期が8月下旬になるよう田植え時期を6月10日以降に遅らせることが有効です。**
- 2 登熟を良くするためには、過繁茂にならないよう基肥を控える。**
- 3 中干し後は根を健全に保つために間断灌漑^{かんがい}を行い、収穫10日前まで水を切らない等の水管理も重要です。**